

地域資源認知の規定要因

——民生委員児童委員への認知と地域活動参加の関係に着目して——

堀江和正（人文社会系研究科博士課程2年）

1 問題の所在

民生委員は、地域住民が厚生労働大臣から委嘱を受け、生活上の困りごとを抱える住民からの生活相談を受けたり、行政・関係機関とのパイプ役となったりするボランティアのことである。民生委員は児童委員を兼務することと定められているため、民生委員児童委員とも呼ばれる。民生委員児童委員は、住民自身が何らかの困難を抱えた場合、あるいは他の住民が困難を抱えていることを発見した場合に相談先となりうる一つの地域資源だといえる。しかし、民生委員児童委員のそうした役割を認知していなければ、相談窓口として活用することはできない。

本稿では、民生委員児童委員への認知がいかなる要因に規定されているのか、また人々の属性によって規定要因は異なるのかを明らかにする。その際、規定要因として特に地域活動への参加に着目する。地域組織への参加が地域の健康サービスの利用を促進することが報告されているが（大崎・辻 2014）、地域に密着した制度である民生委員児童委員への認知もまた、地域の諸活動への参加と関係していると考えられるためである。

民生委員児童委員の役割や活動内容に対する認知度は、都市部では町村部よりも低いことが指摘されている（全国民生委員児童委員連合会 2018: 8-9）。川崎市を対象とした分析をおこなうことで、一般に民生委員児童委員への認知度が低い大都市部においては、民生委員児童委員への認知はいかに規定されているのかを明らかにすることができる。

2 データと分析方法

2.1 調査の概要

本稿の分析では、東京大学文学部社会学研究室が2017年・2018年に実施した「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」のデータセットを用いる。調査は神奈川県川崎市の7区を対象に、郵送自記式でおこなわれた。各区ごとに4か所、計28か所の小地域が選定され、それぞれの地域において選挙人名簿を用いて18歳以上の男女を200名ずつ、7区・28地域合計で5600名を無作為抽出した。有効回答は2457票、有効回収率は44.8%であった。そのうち本稿でデータとして用いるのは、分析に使用する変数に欠損のなかった1463票である。

2.2 分析方法

本稿では、「民生委員児童委員への認知」を被説明変数とし、地域諸活動への参加状況および個人属性を説明変数として分析をおこない、「民生委員児童委員への認知」の規定要因を明らかにする。その際、データを18歳～59歳の「若年・中年世代」と60歳以上の「高齢世代」に分けて分析をおこなう。さらに、各年代において男女別の分析もおこなう。それぞれの層で、地域諸活動への参加の効果が異なる可能性があるからである。実際、民生委員

児童委員への認知が、若年・中年世代よりも高年世代で高く、また男性よりも女性で高いという全体的な傾向が単純集計から確認されており、世代・性別ごとに認知の規定要因を分析することで、より政策的にも有益な知見が得られると考えられる。

2.3 用いる変数

被説明変数である「民生委員児童委員への認知」としては、問8「次の保健や福祉の団体・施設等についておたずねします」の小問3「民生委員児童委員」への回答を用いた。設問は「聞いたことはない」、「聞いたことはあるが、事業の内容は知らない」、「知っているが、利用したことはない」、「利用したことがある」の4件法であったが、「聞いたことはない」「聞いたことはあるが、事業の内容は知らない」を「0：認知なし」、「知っているが、利用したことはない」「利用したことがある」を「1：認知あり」とする二値データに変換した。

説明変数としては、大崎・辻（2014）を参考に、①「地縁団体への参加」、②「趣味・スポーツ組織への参加」、③「ボランティア・市民組織への参加」、④「その他組織への参加」の4変数を作成した。①「地縁団体への参加」は、問5「あなたは、この1年間に、下記のような会（グループ）の行事や活動にどのくらいの頻度で参加しましたか」の小問5「町内会・自治会」および小問3「老人クラブ」について、いずれにも「参加していない」と回答した場合を「0：非参加」、いずれかに「年に数回」「月1～2回」「週1回程度」「週2～3回」「ほぼ毎日」参加した場合を「1：参加」としてダミー変数を作成した。②「趣味・スポーツ組織への参加」については小問7「スポーツ関係のグループやクラブ」と小問8「趣味関係のグループ」を、③「ボランティア・市民組織への参加」については小問6「ボランティアのグループ」と小問9「市民運動・消費者運動のグループ」を、④「その他組織への参加」については小問1「政治関係の団体や会」・小問2「業界団体・同業者団体・労働組合」・小問4「宗教関係の団体や会」をそれぞれ用い、同様に「0」を非参加、「1」を参加とするダミー変数を作成した。

また、住民のボランティアである民生委員児童委員への認知には、近隣住民との交流も関係していると考えられることから、「近所づきあいの程度」を説明変数に加えた。問7「あなたは地域内（町内）のご近所の方と、どのようなおつきあいをされていますか」に対し、「たがいに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている」、「日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている」と回答した場合を「1：高」、「あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない」、「つきあいは全くしていない」と回答した場合を「0：低」とするダミー変数を作成した。

それ以外に、性別（0：男性、1：女性）、年齢、教育年数、就労（0：無、1：有）、婚姻状況（0：未婚・離死別、1：配偶者あり）、世帯収入（対数変換済み）を説明変数として投入した。

分析に用いた変数の記述統計は表1（p.5）のとおりである。民生委員児童委員の活動を認知しているのは、若年・中年世代では3割ほど、高年世代では6割ほどであり、高年世代のほうが大幅に認知度が高いことがわかる。また、いずれの世代においても男性より女性のほうが1割ほど認知度が高いことがわかる。

2.4 分析の方法

分析の方法は、二項ロジスティック回帰分析を採用し、分析にはStata14.0を使用した。

なお、データがグループごとにまとまりをもつ（ネストされている）場合、マルチレベル分析が有効であることが知られている（筒井・不破 2008）。本稿の用いるデータセットは、小地域ごとにサンプリングをおこなっていることから、個人を小地域にネストされているものとみてマルチレベル分析をおこなうことが適切である可能性があった。そこで、「若年・中年男女」、「高年男女」、「若年・中年女性」、「高年女性」、「若年・中年男性」、「高年男性」のそれぞれについて、小地域レベルのランダム切片を導入したモデルを実行し、小地域を考慮しないモデルとの間で尤度比検定および AIC・BIC の検討をおこなった。結果、いずれの年代・性別においても、小地域レベルで切片をランダム化することでモデルの適合度が上昇するとは認められなかった。そのため、本稿ではマルチレベル分析を採用する意義は薄いと判断された¹⁾。

3 分析

民生委員・児童委員への認知を被説明変数としたロジスティック回帰分析の結果は、表 2 (p.6) のとおりであった。まず、若年・中年全体と高年全体を比較すると、若年・中年全体では地縁団体の参加、ボランティア・市民組織への参加、その他組織への参加、近所づきあいの程度が民生委員・児童委員への認知に有意な正の影響をもち、また女性ダミー、年齢、教育年数も有意な正の影響をもっていた。対して高年全体では、地縁団体への参加と近所づきあいの程度、および年齢のみが有意な正の影響をもっていた。

より細かなカテゴリーごとに結果をみてみよう。まず女性について、若年・中年女性ではボランティア・市民組織への参加、その他組織への参加、近所づきあいの程度、および年齢が民生委員・児童委員への認知に有意な正の影響をもつ。対して高年女性では、有意な影響をもつのは近所づきあいの程度のみであった。男性については、若年・中年男性では地縁団体への参加、その他組織への参加、近所づきあいの程度、および年齢、教育年数が民生委員・児童委員への認知に有意な正の影響をもっていた。高年男性では、地縁団体への参加、近所づきあいの程度、および年齢が有意な正の影響をもっていた。

4 考察

分析の結果、年代・性別によって、民生委員・児童委員への認知を規定する要因は異なっていた。近所づきあいは、おおむねどの年代・性別においても民生委員・児童委員への認知を高めていた。しかし、その他の活動について民生委員・児童委員への認知を高める効果は年代・性別により大きく異なっていた。

地縁団体への参加は、男性でのみ民生委員・児童委員への認知に有意な正の影響をもっていた。男性にとって、民生委員・児童委員の活動を認知する数少ない機会が、町内会・自治会といった地縁団体の活動なのかもしれない。

いっぽう女性では、若年・中年世代でのボランティア・市民組織への参加や、総じて男性より活発な近所づきあいなどを主な機会として、民生委員・児童委員の活動を認知していることがうかがえる²⁾。高年女性の民生委員・児童委員への認知は 6 割台後半にのぼるが、それが現在の団体活動への参加状況には規定されていないことは、現在必ずしも積極的に地域の諸活動に参加していなくても、地域資源に関する一定の知識を有する人々が存在して

いることを意味している。こうした人々は、自分や家族が生活上の何らかの不安や困難を抱えたとき、より広い相談先・対処方法を動員できるだろうし、近隣住民の困難を民生委員などにつなぐ潜在的な見守り役にもなりうる。

民生委員・児童委員をはじめとする地域資源への認知を高めようとするならば、(1) より広い年代・性別からの認知の獲得につながるようチャンネルを多様にしておくこと、(2) 現在は積極的に地域活動に参加しているわけではないが地域資源に関する知識を有する人々の存在に目を向けること、の2点が有効だろう。

[注]

- 1) Stata を用いたマルチレベルモデルの適合度比較については石黒編 (2014: 140-2) を参照。
- 2) 川崎市北部の近隣ボランティア団体 H は、豊富なボランティア経験と諸制度やサービスに関する知識をもつ代表の女性を中心に活動し、住民と専門機関をつなぐ場として機能していた (堀江 2018) が、H の中心的ボランティアスタッフはみな近隣の女性であった。

[文献]

- 堀江和正, 2018, 「住民と専門機関をつなぐ場の構築——近隣ボランティア団体 H の事例から」川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査ワーキングペーパー.
- 石黒格編著, 2014, 『改訂 Stata による社会調査データの分析——入門から応用まで』北大路書房.
- 大崎裕子・辻竜平, 2014, 「健康サービス利用にたいする地域組織参加の効果——マルチレベル分析による市区町村間の違いの検討」辻竜平・佐藤嘉倫編『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』東京大学出版会, 169-87.
- 筒井淳也・不破麻紀子, 2008, 「マルチレベル・モデルの考え方と実践」『理論と方法』23(2): 139-49.
- 全国民生委員児童委員連合会, 2018, 『民生委員制度創設 100 周年記念 全国モニター調査報告書 第 2 分冊』 (https://www2.shakyo.or.jp/old/pdf/mjassist/100syunen2_zentai.pdf)

表1 分析に用いた変数の記述統計

	若年・中年全体		高年全体		若年・中年女性		高年女性		若年・中年男性		高年男性	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
被説明変数												
民生委員児童委員の認知 (0:無、1:有)	0.312	0.464	0.624	0.485	0.360	0.480	0.676	0.469	0.256	0.437	0.566	0.497
説明変数												
性別 (0:男、1:女)	0.540	0.499	0.524	0.500								
年齢	42.249	10.513	69.863	7.287	41.653	10.508	69.681	7.444	42.950	10.486	70.064	7.122
教育年数	14.629	1.756	13.407	2.151	14.480	1.648	12.871	1.861	14.805	1.862	13.995	2.294
婚姻 (0:無、1:有)	0.735	0.442	0.780	0.414	0.740	0.439	0.730	0.445	0.729	0.445	0.836	0.371
就労 (0:無、1:有)	0.871	0.335	0.439	0.497	0.806	0.396	0.378	0.486	0.948	0.222	0.507	0.501
世帯収入 (対数変換)	6.637	0.597	6.181	0.752	6.638	0.616	6.191	0.763	6.636	0.575	6.169	0.742
地縁団体への参加 (0:非参加、1:参加)	0.225	0.418	0.417	0.494	0.242	0.429	0.452	0.499	0.206	0.405	0.379	0.486
趣味・スポーツ組織への参加 (0:非参加、1:参加)	0.384	0.487	0.467	0.499	0.380	0.486	0.544	0.499	0.388	0.488	0.384	0.487
ボランティア・市民組織への参加 (0:非参加、1:参加)	0.094	0.292	0.141	0.349	0.107	0.309	0.191	0.394	0.078	0.269	0.087	0.282
その他組織への参加 (0:非参加、1:参加)	0.173	0.379	0.172	0.378	0.124	0.329	0.145	0.353	0.232	0.423	0.201	0.402
近所づきあいの程度 (0:低、1:高)	0.308	0.462	0.620	0.486	0.395	0.489	0.730	0.445	0.206	0.405	0.498	0.501
<i>N</i>	1003		460		542		241		461		219	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

表2 ロジスティック回帰分析の結果（被説明変数：民生委員・児童委員への認知）

	若年・中年全体		高年全体		若年・中年女性		高年女性		若年・中年男性		高年男性	
	係数	S.E.	係数	S.E.	係数	S.E.	係数	S.E.	係数	S.E.	係数	S.E.
性別（0：男、1：女）	0.572 ***	0.161	0.258	0.224								
年齢	0.046 ***	0.008	0.027 †	0.016	0.050 ***	0.011	-0.007	0.022	0.042 **	0.013	0.073 **	0.027
教育年数	0.095 *	0.047	0.026	0.052	0.069	0.067	0.060	0.084	0.116 †	0.068	0.001	0.070
婚姻（0：無、1：有）	0.039	0.203	-0.298	0.264	0.195	0.277	-0.533	0.356	-0.084	0.310	-0.260	0.439
就労（0：無、1：有）	0.203	0.239	0.090	0.228	0.296	0.267	0.078	0.321	0.101	0.611	0.303	0.359
収入（対数変換）	-0.016	0.140	0.066	0.150	0.100	0.181	0.311	0.206	-0.185	0.225	-0.141	0.245
地縁団体への参加 （0：非参加、1：参加）	0.462 **	0.177	0.467 *	0.221	0.232	0.239	-0.019	0.320	0.694 **	0.267	0.914 **	0.328
趣味・スポーツ組織への参加 （0：非参加、1：参加）	0.011	0.157	0.296	0.218	0.068	0.209	0.305	0.320	-0.058	0.251	0.226	0.319
ボランティア・市民組織への参加 （0：非参加、1：参加）	0.952 ***	0.253	-0.087	0.324	1.457 ***	0.350	-0.076	0.414	0.282	0.409	0.072	0.580
その他組織への参加 （0：非参加、1：参加）	0.544 **	0.194	0.147	0.286	0.567 †	0.296	0.240	0.460	0.598 *	0.263	-0.001	0.392
近所づきあいの程度 （0：低、1：高）	0.579 **	0.167	0.814 ***	0.222	0.535 *	0.215	1.203 ***	0.335	0.665 *	0.278	0.521 †	0.315
定数	-5.124 ***	1.075	-2.911 †	1.707	-5.304 ***	1.441	-2.133	2.496	-3.931 *	1.627	-4.565 †	2.656
カイ二乗	148.13 ***		41.13 ***		96.92 ***		21.07 **		48.45 ***		31.71 ***	
N	1003		460		542		241		461		219	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$